

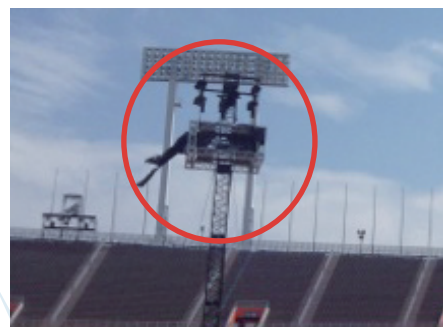


風の猛威!!

野外の現場で欠かせないのが風に対する安全対策です。今までの観測地から風速を予測して強度計算しますが、設置する場所や季節によって風速は大きく異なります。一般的に大都市では強風は吹きにくいのですが、高層ビル街になると強いビル風が吹きやすいですし、地表面では風速ゼロでも、グラサポのトップまで行くと風速10m近くだったりもしますので、事前の下見や毎年の記録の備蓄が重要になります。

~~~~~

今回、国立の風速は20mで計算していましたが、念のためシートをめくったり、SPや映像の固定、ウェイトの追加などの対策を行いました。風速計の観測値次第では映像やパネルを下ろしたり、固定しなければならぬ場合もありますので、野外現場では風速計は必ず設置し、常に気を配るようにしましょう!



強風に煽られ大きく揺れるディレクター雨養生の黒ターポリンもビリビリに...



シミズオクトが導入している風速計。どの方位からどのくらいの風が吹いているのか瞬時に確認できる。データも常に記憶されている。



## フォークリフトナンバーマグネットについて

アリーナやドームクラスの大会場で主に活躍しているフォークリフトにナンバリングを施して作業の効率化を計ることになりました。たとえ、遠くを走行中のオペレーターの名前を知らなくてもシーバーを通してナンバーを呼ぶことで、コミュニケーションをとることが可能です。また、事前にナンバーを決めておけばオペレーターが自分の車両を確保しやすくなるため、勝手に他の場所に乗って行かれてしまうのを防止できます。なお、左載の写真は仮イメージです。大きさ、貼る位置など良い提案がありましたら安全向上委員会メンバーにお伝えください。



## ☆現場インタビュー☆

コスモ エンジニアリング 磯村さん

日本ステージでの最初の仕事は、7年前の某外タレの東京ドーム、京セラドームでした。いつもの測量の仕事とは全く違い、24時間以上ポイントを出し続けるのはとても大変。その帰り道に次の仕事を受けてしまい、今に至ります。だんだんと力の抜き方もわかってきて、今となってはその大変さを楽しんでいます。この国立3連戦も、お風呂に入れないのが辛かったですが、最後の国立での仕事かと思うと感慨深く、苦にはなりません。普段の仕事はスパンが長く、形になるのに何年もかかりますが、イベントはすぐ形になって見れるのが嬉しいです。今後も楽しんで仕事をしていきたいですね!!

国立にて真剣に測量中の磯村チーム



※5月9日は誕生日です♡